

## 2-2 介護ロボット等活用の基礎

介護ロボット等を活用するにあたり最も重要なことは、利用者お一人お一人の個別ケアプランに沿ったものであるかということです。個別ケアプランの中の「どの部分」に「どのような目的」で「どの介護ロボット等」を、「どのように活用する」のかを明確にする必要があります。

また、利用者の自立支援のために活用するという視点を忘れないようにしましょう。介護ロボット等が利用者の残存機能を阻害するようなことはあってはなりません。さらに、他の福祉用具や機器との適合性や、留意事項の確認と使用する環境の調整が必要となります。介護ロボット等の活用が利用者の不利益にならないかを予め検討しておく必要があります。

それぞれの機器に適応する身体特性や禁忌は事前にメーカーから学び、職員間で共有しておきましょう。

### (1) 移乗支援機器の適応と留意事項

介助者、利用者にとって活用の頻度が比較的高いと想定されるのが移乗支援機器です。その適応と留意すべきポイントをしっかりと押さえましょう。

移乗支援機器には介助者が装着する装着型とリフターなどを備えた非装着型があります。非装着型には抱え上げるタイプのもので立ち上がりを補助するタイプのものがあります。ここでは、非装着型の適応と留意事項を解説します。

#### ① 抱え上げるタイプ

##### ア. 適応

原則として身体機能等の衰えから端座位などの座位保持が困難な利用者に使用します。

##### イ. 留意事項

利用者が介助者の声かけ（指示）等によってベッド柵を把持して座位保持ができる場合などには、自立支援の観点からスタンディングリフトやスライディングボードなどの福祉用具を使用して移乗を行ったほうがよい場合があります。



## ② 立ち上がりを補助するタイプ

### ア. 適応

利用者が自立して、もしくはベッド柵などを把持して座位保持が出来る場合に使用します。

### イ. 留意事項

利用者の下肢が屈曲拘縮などで伸びない場合は使用できない可能性があります。また機種によって前かがみの姿勢になるものと後ろにもたれて立ち上がりを補助するもの等があり、利用者の身体状況に合わせて機種を選択する必要があります。

## (2) 移動支援機器の適応と留意事項

利用者が機器を使用し移動するための適応と留意すべきポイントを押さえましょう。

### ア. 適応

利用者に歩行意欲がある場合は、歩くことで自立度が上がったり、体の筋力強化や呼吸器のリハビリテーションなどに効果が期待できることから移動支援機器の活用が選択肢の一つになります。

### イ. 留意事項

利用者の身体機能にあった機器を選択する必要があります。また運動負荷が本人の心肺機能等への負担となるリスクがある場合は、事前に医師の指示を仰ぐ必要があります。また、本人の体調が悪い場合に使用を控えるといった判断をいつ、誰がするのかを、予め決めておく必要があります。



### (3) 排泄支援機器の適応と留意事項

排泄の自立は利用者の尊厳に関わる大変重要な事項で、機器の使用には常に尊厳への配慮が必要となります。排泄動作を支援するポータブルトイレ型のもと、寝たきりの方の自動排泄処理装置に大別されます。また、センサー技術で排泄のタイミングを計測しトイレ誘導などに活用する機器もあります。

#### ア. 適応・留意事項

利用者の身体機能や認知機能を考慮しつつ、ご本人が排泄動作においてどの部分で困難さを抱えているのかを評価し、ポータブルトイレ型あるいは、自動排泄処理装置など適切な機器を選択しましょう。

### (4) 見守り支援機器の適応と留意事項

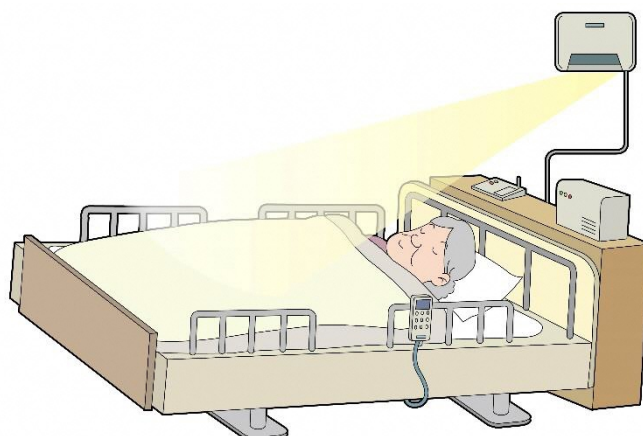
見守り支援機器にはセンサーやカメラで撮影した映像解析などを利用した体動を検知するタイプや、心拍や呼吸などの生体情報を取得するタイプなどがあります。施設的环境や利用者の状況に合わせて選択しましょう。

#### ア. 適応

夜間の巡視が必要な利用者や、個室で過ごされる利用者の行動を見守ることができます。

#### イ. 留意事項

居室における利用者の生活を把握できるものでもあるためプライバシーには十分配慮した上で使用する必要があります。



## (5) 入浴支援機器の適応と留意事項

### ア. 適応

原則として利用者の起立や移動が困難な場合、あるいは介助者の負担が大きい場合に使用します。

### イ. 留意事項

浴槽への出入りが困難なのか、脱衣室から浴室の入退浴の一連の動作が困難なのか、利用者の体型や身体機能、入浴への意欲、認知機能等を予め評価しましょう。また、入浴場面だけでなく居室から脱衣所までの動線、脱衣所内での動作や浴槽内の面積などの環境要因も含めて機器を選択しましょう。



## (6) 介護業務支援機器の適応と留意事項

### ア. 適応

バイタルサインや見守り、移動支援、排泄支援をはじめとする介護業務に伴う情報を収集・活用するための機器です。利用者への適応等はありませんが、利用者に必要な支援への活用や業務効率化のツールとして使用します。

### イ. 留意事項

記録する項目や内容、活用方法などについて、事前によく確認し、理解しておきましょう。

このように、介護ロボット等の活用にあたっては、利用者の自立支援や QOL 向上、介助者の負担軽減を考慮しつつ、適用範囲の検討が行われることとなります。実際の業務で使用する際には、機器ごとの特性や効果、使用方法、使用上の注意点などを事前に十分理解した上で、利用者の日々の体調等に配慮しながら使用しましょう。また、利用者と利用者の家族に対し、事前に安全性などについて十分な説明を行い、同意を得ておくとなお良いでしょう。

